

国語プリント No. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

東下り 仮名書き・口語訳

あつまくたり

むかしをとこありけりそのをとこみをえうなきものにおもひな
 てきやうにはあらしあつまのかたにすむへきくにもとめにとてゆ
 きけりもとよりとするとするひとひとりふたりしてゆきけりみちし
 れるひともなくてまとひゆきけりみかはのくにやつはしといふと
 ころにいたりぬそこをやつはしといひけるはみつゆくかはのくも
 てなれははしをやつわたせるによりてなむやつはしといひけるそ
 のさはのほとりのきのかけにおりゐてかれいひくひけりそのさは
 にかきつはたいとおもしろくさきたりそれをみてあるひとのいは
 にくかきつはたといふいつもしをくのかみにすゑてたひのこころを
 よめといひければよめるからころもきつつなれにしつましあれは
 はるはるきぬるたひをしそおもふとよめりければみなひとかれい
 ひのうへになみたおとしてほとひにけり

【口語訳】

- (一)昔、男がいたそうだ。
 (二)その男は、自分を無用のものだと思いこんで、
 「京にはおるまい。
 (三)東国の方に住みよい国を探しに行こう。」と思
 って旅に行ったそうだ。
 (四)以前から友とする人を、一人二人連れて行っ
 たそうだ。
 (五)道を知っている人もなくて、迷いながら行っ
 たそうだ。
 (六)三河の国八橋というところに着いた。
 (七)そこを八橋と言ったのは、水の流れる川が、

(八)唐衣を着続けてよれよれになった棲があるので、張りながら着てきたなあ。これまでの旅をこ
 んなふうにした。

〔裏の口語訳〕

蜘蛛の足のようになっているので、橋を八本渡
 したことによって、八橋と言ったそうだ。
 (九)その沢のほとりの木の陰に下りて座って、乾
 飯を食べたそうだ。
 (十)その沢にかきつばたがとてもきれいに咲いて
 いた。
 (十一)それを見て、ある人が言うことには、『かき
 つばた』という五文字を各句の初めに据えて旅
 の心を詠んでくれ。』と言ったので、このよう
 に詠んだ。

(十二)と詠み終えたので、みんなは、乾飯の上に涙を落として乾飯がふやけてしまった。